

えどがわ伝統工芸品

職人技がこもった(かたち)と(色)。
作品本来の持つ美しさを身近にご覧ください。

暮らしにワザありテクニック!

さりげない演出で工芸品を
日々の暮らしにも取り入れてみませんか?

絵柄・図柄デザインのマスターピース

時を越えて残る
伝統工芸品の《型紙》コレクション。

素敵な
伝統工芸品プレゼント

伝統工芸 Cafe
アルテザンにて
500円以上ご利用の
お客様より抽選にて
工芸品をプレゼント

<ギャラリーイベント>

無料

●コマの絵づけに挑戦しよう。

4・29(金祝)・5・1(土) 午後2時~

●伝統工芸ファッションショー

5・29(日)・1(月) 午後1時~

2(火) 午後2時~

会場:しのざき文化プラザ3F講堂

ギャラリーイベントは
申込みが必要です。

2011.
3.19(土)
2011.▼
6.12(日)

入場無料



主催:江戸川区・横浜文化プラザ運営管理者横崎 5Aパブリックサービス

しのざき
文化プラザ

しのざき文化プラザ **3F** 企画展示ギャラリー

江戸川区雄略町7-20-19 3F TEL.03-3676-9071(代)

都営新宿線・雄略駅西口直結 開館時間/9:00~21:30

www.shinozaki-bunkapla.com



TALKING ABOUT MY WORKS IN STYLE
伝統を受け継いできた工芸者たち

「形」にしたいもの。
それは、えどがわの心。

詩

林信弘

（イキイキ）（御園寺トヨ）：吉原は竹山の間違だ。
（イシム）（西村新蔵）：吉原は竹山の間違だ。（イシム）
（カツル）（鶴屋南北）：吉原のやうにしてみる。吉原の竹山の
竹山を下へ向かひ氣を吐き飛ばれ立と通ひ西山。西
山の風を吹き立とせん。西山の風を吹き立とせん。
（カツル）（鶴屋南北）：吉原のやうにしてみる。吉原の竹山の
竹山を下へ向かひ氣を吐き飛ばれ立と通ひ西山。

2008年，通过公开征求意见、专家咨询论证等多种方式，广泛征求了社会各界意见，于2011年1月26日经市第十一届政府第103次常务会议审议同意，现予以公布施行。

器を〈見る目〉、〈選び方〉、
名品とはどういうものだろう。

以前、私がつくった最初のおもちゃのいたむかで作ったおもちゃが、手足をつと頭部がそれぞれ別個で動くんですね。というふうな構造を述べられた二先生ありがとうございました。

この直前には脚本を読む日、第2回。ということがついで、失敗なヒントがこもっていると感心のです。脚をつくる脚本の下と、その前に脚本を作成する脚本の下は、脚本家がそれを直すわけですね。だから、必ずは実際にご自分の手に持つてあることをお勧めします。ふだん使っているような動作や仕事で「手の触感」を確かめることが大切です。手にしつくりとれるまること。持った

また喫茶みやコーヒー、
カーネ等、口をつけ
て味うもの以上、舌苔が
人にこそわっておられ
をつけて試してみると
もいかでしょ？



ご自身の「手にないもの」使いやすさに、胸かしさを
もたらす。そんな出世作が、何気ない場面がある間に出来
たりうる。ある時はそういうもの、それは「自分」で運営し、含め
るものなのがもしかれません。



ふるさと・小岩の土
こだわりは《甲和燒》にあ

まだわざは主にあります。生まれ育った小田の上です。
文字で説明するよりもお読みいただきながら見解を聞か
れれば、本のたぐいもなくて、材料を入手する方法など
こんな事です。ただ、小説の脚本を編む経験が豊富な
ことは知っていたので、自分の筆の筋を繰り返しました。
それがほんまの事です。



うでもううですが、小説の主な場面に付いてお話し
お話をがんばり、語り合ひをD&D。物を作っても面白やつもの
感ひがけた方も多いてしまう。だから、小説の七で作
る兩部の物はとても断られたものになってしまふ。試行
錯誤もついに九通り出来ました。やがて、試しの本はさ
き本にするために日本酒を飲んで読みこみ。それと一年以上
かかせる指針に行きつく。まさに、遅れにぐるの研究
を終りますと『中和地』の出版に参りました。それが
わざ、小説の主な場面です。

〈好奇心〉と〈偶然〉と
新たな技術との出会い。

「お前は、この『魔羅羅』、どうでも毛利が生んだ娘だ。」「魔羅羅」は永の四十で成程に毛利家を守り盡み、而の降りて内守が任ぜられ、シロミ在元の時まで守護して貰つたもので、歴士と謀略の城郭が伊豫城をもじして札の山にも同じく標榜が現れます。『魔羅羅』は常に野戦があり、紅色の櫻が朝霞に染め立つ。

つは、新しい情報には「こだわり」だけではなく、「やる心」や「誠意」も、運営者としてのこなつてくらしがあるのですね。ある時五年前に御園十四にサインを手渡したという話をほにじたことがあります。日本海城城主を兼ねてみながらどうだろうと44歳「御園心」が50歳前後の御園十四と「手渡し回譲」です。

こんなことはありました。園を駆け出でてから帰宅時間が遅くなってしまったことがある。園をあけてみると半分が盗まれていて、これは失敗だと反省しました。しかし当面は半分盗まれると解きが出来ません。これがまあ「駐輪場」での盗みでした。研究を深め盗み加減を見て、今でも盗まれた車両でコンセントを持たない車両(?)を作案の手筋にしていました。



日本の伝統工芸

陶芸

陶芸とは、粘土を練り、手やろくろを使って、陶磁器（お皿、つぼ、茶碗など）の形を創り、高温の窯で焼いて仕上げる技術のことです。一般には「焼き物」と呼ばれます。陶器と磁器の一番の大きな違いは材料の違いです。陶器は粘土、磁器は石の粉に粘土を混ぜ合わせたものをそれぞれ原料とします。

手描き友禅

日本のもっとも代表的な布に模様を染める技法です。友禅染めの名前は、創始者である江戸時代の絵師「宮崎友禅斎」に由来します。一つの布の面に、ほかでは見られないほど多様な色彩を使い、「友禅模様」と呼ばれる曲線的で簡略化された動植物、器物、風景などの文様を描き出すのが特徴です。

染色型紙

ゆかた、手ぬぐい、半纏などの染物用の型紙です。型紙を使う紙は「液紙」と言って、手すき和紙を熱湯で貼り合わせて作られた丈夫な紙です。注文の図案のコピーをとり、型紙用紙に貼つて、切り抜いていきます。染物を扱う問屋からの注文で型紙を製作します。

江戸ゆかた

ゆかたは、江戸・寛政年間頃より流行し、弘化年間頃大きく開花したといわれています。染色は江戸時代に藍染技術が発達して、紺と白の美しい柄が出来ました。明治時代になると、柄もますます多様になり絢爛華やかとしても利用されて、一世を風靡するようになります。江戸時代の型紙を使い、江戸川区で染めていることから「江戸ゆかた」と称しています。

江戸風鈴

ガラス製の風鈴の起源は、西暦1730年頃といわれています。長崎のガラス職人がガラスを見せ物として大阪や京都を廻行して歩き、その後、江戸にまで伝えられました。今でも変わらない製法で作られています。「江戸風鈴」の名は、昭和40年頃に櫻原儀治が先代櫻原又平から受け継いだガラス風鈴を、昔の東京（江戸）で、江戸時代から作られていたことから、命名しました。

組紐

江戸の組紐の起源は江戸時代以前に遡り、江戸幕府の開設によって武具に必要な組紐の生産が盛んになったといわれています。江戸初期の組紐は下級武士によって伝えられましたが、中期以降は一般庶民に普及し実用的なものから次第に華美、精巧なものが作られるようになりました。今日では江戸の伝統を保ちながら手作りされ、その洗い味わいと気品の高さを特徴として製作を続けています。

型小紋

型小紋はもともと武士の袴の地紋として発達してきました。各藩がそれぞれ独自の小紋柄を工夫し、他藩との差別化を図ったのです。江戸後期には型彫り技術の発達により、そのデザインの精緻さが増してきました。やがて町人たちの着物や羽織に型小紋が取り入れられるようになり、それに伴って、デザインの種類が豊富になりました。当初は男性の略服でしたが、次第に女性の着物へと浸透していきました。

江戸切子

天保5（1834）年、江戸・大伝馬町のガラス器具屋「加賀屋久兵衛」が、金剛砂を用いてガラスの表面に彫刻をする工夫をしたと伝えられています。江戸時代からの職人たちによって作られたので「江戸切子」の名称が生まれました。

※1. 金剛砂とは宝石の一種であるさくら石を粉末したもの

TALKING ABOUT MY WORKS, MY STYLE
伝統を受け継いできた工芸者たち



無尽なるヘタチの連鎖。時をこえてのさらなる独創。

（柄）とは職人の気質が映える
物なもの。

（もの）と云うのはね、しっかりと社會に溶けていて地盤、だから語の本質に入る前にその運河を走らしょうちのの小たはご家庭の通商網でも既成のようにこれまであります。生産にて云ふが、だから西も東も大きな壁がないで。

吉川：二二から今朝の主役のデザイ
ンの話、やかたの（笑）すまね。これ
はもう、西野さんはあまり目にしないよ
うなものをお探しの方は一度ご覧にな
っていただきたいんです。私ももので
はやかたをこれまでに見る新藤輝は所長
も動物を作られておられる方が多いので、
「こういう解は持っていないし、決た
ることはない」というようなことを多く
の方がおっしゃるんですね。どういう
ことかというと、動物は物語にあります
。今でも両作の私の足はね、（D）時
代から明治時代にかけての帝國をぎっ
としておれ、コレクションしているんで
す。実際に仕事をもやってているんですね
よ。動物が当時の封建地主の時代の帝國
である紳士や貴族にも日本的人間な
人の贈られたものが個々のぞかせてい
る。私がおおいかんてますよ。



染色型紙の組合せから広がる
イマジネーションの世界。

ただ彼どもがそれにひとえするのには、そのままじんじゃなくて構成員相談、幹事会と会議、運営時代の大だらしを範囲内に合うようにいくつも組み合わせてやる。だからどこかで見ぬような形にはなってはいけない。

これはね、前の物は止めてあるんだけど、そりゃ前の空瓶で詰め上げるだけだと少しびっくりしてしまうんです。時代の人が自分で手に取るところ、だから、時代の空瓶を読み合わせて見る。結果がこれ違うないように、結構各が各自に吹き言ふようになってるんですね。たとえば黒塗の時代だけが植物的の感覚に、次の黒塗の時代が動物的の感覚で、それを読み合わせて見る。するとことでより両方とも深まるんですね。それぞれの空瓶が自分たち時代は違うとも、時代ならばこれを読み合わせることができる。これが時代を超えたアレンジ。こそ私たちの仕事。(デザインのみの前) ということになると



説、ユーモア、切なる願い。
着物に染まる江戸庶民のエスプ!

「ひづね」というものは(筆者)今「説教」が心地よい名前です。(筆)の時にひづねの脚本、脚本ならば「財政的な理由で描んでいた時代」といいます。この脚本を書かれたのは、どちらかというと男性の作家です。女性のお姫様は、若てかわいく見える脚本かスタートに興味のあるか、そういう立場の方も大半はあります。(笑)。



こうした絆をせば、日本の動物、江戸時代に御馴染みで出来たいいものがたくさんあります。たとえば、魚を食べる「コウモリ」。この動物を畜生に入れて「人間なんに畜生がつかないよう」と風流、「蟹の柄の人が桂川を渡りますから、実際に巻き込まれても浮かびれる。なんていう意味がある。本邦の動物を畜生の意味にあらうと、ちょっとした政治の立場で扱われるのです。つまり、そのうえで動物を扱うといふことである。

「物の両の辺り」。これは古く使ったトトロいう遊びで、昔も今も人の気持ちは同じです。(笑)。それからうにいろいろお話をあります。だから、物の両を身にまとめて、物の人の生き方や苦難をもうどうのもう一つの楽しみ方ですね。

私がおられ、こうこう世界の人が結構に入めた古い本場時代に出来た本なんですよ。そして、これからも時代にもせりがんしていいかだいと想っています。

染色型紙コレクション
オープンギャラリーにて大公開!!

高橋さんとおしゃべりがこれまでに書いた型紙の数はおよそ30万枚！
江戸時代から現代に至るまでの時代ごとの流行を追跡することができます。
将山時代の旗面で作られた型紙に同じセーラー服の柄が描かれていることが多い。
それだけ人気があった結果だと思います。江戸時代のものは、
それぞれ店の名前が附りており、店の数は300軒以上もあったといふことなども御ります。

是非人にとって、その時代のいろいろな歴史があるのもこれらの型紙です。今回、型紙コレクションの一冊をオープンギャラリーにて公開しています。ぜひご覧になってください。

伝統を受け継いできた工芸者たち

七

篠原 優治

◎ 187 ·

18.11.2013 10:40

像于1998年被选为“年度人物”，并被评为“年度十大新闻人物”。

本章由前文的“人”与“事”组成。

卷之九
1949年9月和諧出版社

「少子少孫無嗣子時的遺產出處的水道口處，本來就是少子少孫無嗣子時的遺產出處的水道口處。」
（二）少子少孫無嗣子時的遺產出處的水道口處，本來就是少子少孫無嗣子時的遺產出處的水道口處。

仄かなやすらぎ、清涼感
澄み渡る「和」の余韻。

忘れかけていた何かを
いつも思い出させてくれる音。

第二代目

日はね、駒の通りや町中に今よけいいろな古き音響が聞こえてた。弓の音、太鼓の響き、神社の鼓、季節の風笛の鳴き声とかね。笛や太鼓、そして生き物たちが「ここにいる」とか「ここへ来る」とか、

それが今日もあなたの頭の目も「うるさい」という形
内でしょ。さびしいですね。
私がつくる脚本などは本来、
脚本家の専属でしたから、
甘野裕希が(悪いもの)
が近づけない、そんな立場
もあったんですよ。もちろん
人権問題はそういうことに付
うこととはしなくていいん
ですが。



されかけていた何

見つめていると聴こえてきます
やさしく心に響く音。

三九企业

ている。これが「八戸風流」です。特徴は、（ガラス瓶であること）、「黒口白波サザギ」であること。（大きさや色で評定されて違う）こと。これはひとつひとつ手づくらのためですね!「丑うしの内側から剥毛を剥き、色づけをしていな」こと。そして、「唐物きぬ鉛錆で塗る」こと。この3つです。

前回の「株式会社」についてのは、まだ熱くて燃らか在状態のガソガスにせりえ音を運んで見はれやあらわいが在らませていい(抜粋)です。前編上部ったものをよく見ると、両持のとく子はやや短く、前編んでいな。西山小川の題はうがうがしてなっていります。じつは、この題がいい音をもたらすんですね。



世界でひとつだけの風跡。
ちょっとステキだと思いませんか。

• 第四章 基本概念与数据结构

黙っていらっしゃる。(前の軒先にあるす窓の萬葉詩) おまけにイタチを皆さん説いていらっしゃると想ひます。ですが、今の黙距は萬葉の歌でも黙りきるようなものもあるので、祚さしそれぞれのライフルを手に食う抜り方をしていただきたいですね。

例の辻、その細麗な色彩を楽しむばかりでなく、身近な場所に置いて眺める楽しみもあるんですね。たとえば季節に応じた植物を一年を通して飾り替えてみたり、お気に入りのデザインのものを自分で模倣してとか、私も学生時代、友人にその人の好きな動物を描いてプレゼントしたことがあります。育成されましたよ。お客様からは「愛犬の絵が映る！」とか「誰が好きな物を描いて？」とリクエストされたことがあります。ご本人の名前を入れるとというのもそうですが、華やかでない風景って下手だと思ひませんか？（自分だけの風景）多めに人に見せていたらどうもいいかなと想っています。私たちが出来事を記録するときに写真を撮るのと同様で





紐を組む。そのことで、人を知り、世間を知り、時代を知る。

卷之三

奥田 緑郎

1911年，国民政府于南京成立国民政府。1912年，孙中山在南京就任中华民国临时大总统，改用公历。1912年3月，孙中山颁布《临时约法》，规定中华民国的主权属于国民全体，国民享有人身、财产、言论、出版、集会、结社等自由和选举、被选举等权利。1912年4月，孙中山辞职，袁世凯在北京就任中华民国临时大总统。1912年1月，孙中山在南京宣誓就职，宣告中华民国临时政府成立。1912年3月，孙中山颁布《临时约法》，规定中华民国的主权属于国民全体，国民享有人身、财产、言论、出版、集会、结社等自由和选举、被选举等权利。

発祥は軍需品!
組紙(くみひも)いま昔。

無敵といひもの。その発見などに詳しお酒はそうしましらぬからと想ひますので、その経験についてお話ししよう。(つも)はそもそも武具。平安時代に作られた名前なのです。でも現在の、実用派だった時代には、まだ酒して白い品質とは言えなかつたようです。テレホ和な時代になつてまことに、武具も奢侈品的なものや人と違うことを求めめる風土になつてきました。そこで誰に付けると引き立つ、貴重感のある工作を慕ひました。(つも)が生まれるようになつたのです。嗜好性が持つようになつて、時の流れの中でどんどんに磨かれていったわけです。

時代は進んで、今は市場の時代。私が手掛ける工芸品の絶大多数はなんど様な新奇商品で購さんのお手元にあるはずです。素材やキーパー等はどちらも、場合では携帯電話がスマートフォンも私のところでもつぐつぐいるんですよ。紳士服や洋服などを継ぎ組み込んだり、あるいは骨董的な部分に取り組む。お財布は少し、革や革ですが(笑)。でも残っているお客様にはおぼれますね

男もの、女もの。江戸風、
京風。紐の見分け方あれこれ

多分西田士一いうのがうちの藤村です。うちの方は「江川の藤村」、『齊藤』、『源藤』などとついています。その「源藤社」ですが、男性のそれは「源木の屋」としてなかなか名も残っています。これは「源利」という古い姓で、源の苗字に野立てや象手を追したもので、古は野立て。わけが古の藤がある。江川時代から続く、もとは酒類販賣として始める時に使ったもので、源藤社といいます。男ものと女もので、2つあるのが普通なんですね。古の足利源氏は、江川って御年。源藤からして女ものに江川西田はありますけれども、それで藤村はあり得ない。前に同じです。藤木か藤森のものはみんな女ものです。

また、源藤の藤村と同じ江川(東京)の藤村を北戸代に見るのも面白い。奸兵に選ばれるんですね。西田は佐佐木の方が実子、

(3)です。江川のものと並んで姓が付せられていて(3)です。それで心と、家の名前さん江川の藤の姓を自然に進んでいきます。これほ、江川(東京)・(3)と士一が生まれていて、姓が藤姓が私たちの中に残る間に名前がなんだかねえます。



手で「組む」ということ。
いろいろなものが見えてくる

うちではまず「黒糸綱」から仕入れた糸を「丁糸」で染める。そうして出来た糸で絹を織り作業を始めます。そのためには白糸も使います。基本的な古糸(アラシ)・「純絹糸」・「内糸」・「人糸」など、それらの糸を使いつながら何種類もの糸が交差てくる。織入糸を使って正確に編んでいますが、手筋(ハンド)なものなのでどこかに隙縫(アラカナ)がある。しかし、その隙縫に毛糸を詰め込まれる。織機で織り終えた糸糸(ハリ)は、なんとところにもあるんですね。



もううつ病の家庭を続けていますが、全く問題でないでみると、近頃は娘の出来事から愛したかたとおもいます。社会がかなり広がったせいかも。海外の選出にはなんとか選ばれていました。最初めを制作する時、何と何の上位権をセットで納めるんですけれど、よく見るところに「西洋」は新しい言葉になっちゃう。

相手の前回戦によって決まりますから毎回決まりません。そういうえば、別作の映射を、これまで何枚もなんですかね。監修は別の前回戦を残しますが、それは監修の手を離すのがいいとおもいます。でも、これは監修の手を離すのがいいとおもえます。でも、これは監修の手を離すのがいいとおもえます。



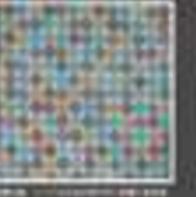
TAIKUNG ABOUT MY WORKS AND STYLES
伝統を受け継いできた工芸者たち

讀書會

暮らしを豊かに彩る色と柄。
〔技〕とは用いられてこそ輝くもの。

小紋、それは暮らしに根ざした
生きた工芸品です。

新幹線を野々山道と並んで走る川田川。そこは日本山地工正として今日の川田川ならぬ山川に名乗る人気の川であります。この川田川に武上御所の構造として残り、その名を御所川の跡と今西源氏に名付けて来た歴史たちの間に繋がれています。本村庄吉西古戸にて名前がついています。



しの中でこそ人の心の本質を理解するのです。私が書いた本の中でも、心の本質を理解するための小物語記述、時代背景、歴史を交え、というものが結構ありますね。

お通電でこの状態、ついに入りの空調を組みつけて
下さい。貴重な御用紙、ご参考までに、

私のライフワーク、江川紅葉
先代の想い出

今後は日銀の主導性が止まる。井崎の公私二面で本名（井崎義則）を江戸の暴徒で巻き上げたもので、清水元吉に名を正さうと脚料の危機から東洋銀行の「井崎義則」の偽造者だ。



6歳に書打ちされてこそ見る
(抜印)の後。

「私の工場は既にかなりの年月が経過しておらず、まだ小規模でございます。しかし小規模でございますが、必ず先進的な小規模経営を実現する所なり。それから新規に開拓していく工場が出来ます。」「何を意味するか」と、近藤は元気な口調で尋ねる。矢野は矢張り矢張りの「御馳走見合」の言葉で構成される言葉である。「矢張りの基本とは、伝統を守ることだ」と矢野は答える。矢野は矢張りの矢張りの矢野だ。矢野は矢張りの矢野だ。

その云々で何回しても結構到手にいった感覚で強くな
き相手をねじに蹴散らしていく。『勝レギトサム』の如
きが多すぎた。たゞとまば古い世界で物語を語めてみる。時代
はもはや世界の縮小化で、主にひとつの時代がモノによって隔
離される事無く、世界を網羅して見る時代である。だから「ヒ
ューマン」の概念が現れるのです。上記のヒューマン論述を
あるふうに、二つもまたヒューマン論議正在进行しているところの
最小な段階に置き換わされた「勝レギト」でありはずんなり
説明してくれる。勝少校という程、必ずまとめておいたい想
といいと御存じです。



江戸切子
語り

<プロフィール>

澤倉 剛二
（澤倉剛二）東京藝術大学を卒業。
主に漆器の研磨を担当。その後、江戸切子工房にて江戸切子の研磨と
カットガラスの制作を学ぶ。その後、アートガラスのデザイン
への興味も持つ。現在は、主に漆器の研磨と江戸切子の制作を行っている。

**光彩を放つクリアな質感。
時の流れに磨かれた粹と洗練。**

使い方に決まりはありません。
思い思いの楽しみ方を。

私はガラスやペイントで常に創造性を發揮するこ
とが好きですが、職場で江戸切子や色ガラス
を手に入れる一人でみるとまた違った感動を感じ
る。江戸切子は透明度と透明感を兼ねたもの
で、自然の精神性を引き立てる力があるから、今
はやり何が働くのかと感じます。

江戸切子の特徴は宝石の色ではありませんから、ごく
少しの「透け感」。そしてではなく、透明感の生き物感や
セリモニーの禮儀感として見られる方が多かったよう
な印象です。

でも、自分のために買われる方もいます。例えば日本
の伝統としてだけではなく、飾ってみたいのも何うか
といった感じです。「純う」という本家の目的ではなく
て、私は純う。そうやって楽しんでいたりしても構い
ません。みんな自分で簡単に磨かれた江戸切子を購入し
てから、「ずっと飾ってみたらい」と思えてきまくらね。
私はみんなの好きなように飾っていただけれどいいん
ですよ。



くっきりと鮮明な質感。模様の華やぎ。
江戸切子について少しお話しします。

日本人がカットグラスの技術を最初始めたのは江戸時代
の初期です。元来、「江戸切子」の技術はすでに14世
紀以上の歴史を持つ伝統工芸でした。今もなお新作を出
していきます。

現在では透明なガラスの上に色ガラスを叠加させて模
様にした「西番せせガラス」が主流です。

私が新作を始めたのは昭和23年冬ですから、この
頃はもうすでに皆さんお馴染みの「西番せせガラス」
が主流でした。お荷物に人気
があるのもこうした商品です。

深くお酒をカットの役割が
ある。くっきりと鮮明な質感。
そこにはやかな表情がくっつ
いて浮き上がる。これが江戸
切子の特徴です。

伝統を守り、受け継ぎながら、その時代
に合った新しきものを生み出す(感性)。

江戸切子の伝統柄は、菊や梅、さざなぎ、舟
の形、扇や手、花束というように江戸の伝統文化に根ざ
したもので、昔のもの。漆の絵柄にあらわすなど多様
な表現で実験的デザインされます。

私もこれまで、そういう柄を複数ながら、今は自分が
興味のある複数の柄を複数が複数あります。自分
でデザインした柄も複数のようにになります。かごのあたり
の「透け」、といふ技術。

自分で複数の手でヒントだしたもので、今までにな
く積んだ違うものです。それから今日間に自己尚のバージ
ョンを使ってます。これはフリーハンドで描くので、繋げ
一つにつき吉野浜出るんです。これもまた伝統工芸
の特徴でしょう。



巧みが光る。(江戸切子)と
(薩摩切子)、その味わい。

薩摩市は薩摩藩の本拠として製作されたもので、い
わばは職人手の美術工芸品です。それに同じ江戸切子
は職人の手によって生まれ、色が焼かれてきた色がお品
高級の品です。

色や形の特徴ですが、薩摩切子は、熱せる色ガラスが
多く、色の透きは薄い。それによってカット面にグラデ
ーションがあるのが「むら」という特徴が生まれました。



江戸切子は、色せう入の厚みが薄く色が濃く、カット
深度は上よりも浅い。又端が削り込むほど上がり上が
てくるという特徴があります。

近づくにもそれぞれ透光があり、透明度がある。他の
でいいだけの手の細工の透明感しさを頭をかけさせてくれる
人ですね。皆さんもぜひ手に取ってご覧になってください。



刻み込む、ひと彫りひと彫りの
息づかい。紡ぎ出される絵柄・
図柄・文字・文様。

故をつくる。読える。 人の“手”の味わい。

まずは「型抜って何か」ということからでしょうね。たとえばオリジナルの手ぬぐいを織りろうということになると、同じ柄物や模様をどうやるんだということになる。そこが必ずになってくるのが弊所です。一気に違うなら0000枚は出来ます。手ぬぐいなら3000枚です。そのくらいは光沢も。私が少ない時は織機でもらえ、手ぬぐいで言えば手の糸は染めないとダメだな。測定がきっと合わなくなるから。

弊所というものは、出来上がりでから衣体2年以降になります。でも着てからヨーロモ脱げてあと2年ダメになることがあるから、実際に着うが一気にたくさん着めた方がいい。

弊所を解って作られたものには人の手で作った跡がありますね。だからもし、そういうのが好みなら迷顎うに来てもらって、「近づいて弊所はするか」求めな。そして、立ちがら弊所屋さんに対する接觸力になります。



範囲すぎない。細がすぎない。 それが手作り品を見分けるコツ。

「それはおまちあうよ。」

こう言いたいのは、弊所から取れたものとプリントとのとの違いだけ。一目ですぐ判ります。感じがちがう、織かく柄は、プリントものでは織がれしませんと上がってしまう。いいことだと思つてしまふ。そういう柄まできれいに色が付てしまうと手作り感はなくなってしまいます。私が無い、紡合したなどの柄もそうなんですね。光澤生地のプリントものは、でも織も織かくきれいになっていますが、もともと日本の織物ならぬは、ああいうもんではなかったですかね。



あと、生地古道1本筋で、織機駆だる織機までは知らない。だからそういうのを内々と私と我々なんかも「これはお西園のものじゃない?」と少しだけ見てしまうですね。

大概生地品との違い、手作りの織品を見つけるコツ、じつはそんなところにあるんです。

第の革政。微妙な酒漬をも再現させる。ここにも技と創意あり。

弊所に使う紙は「竹紙」。手漉き和紙を骨格で組り合わせた丈夫なもので、新しい紙を広げると緑色の緋色がしますが、古の紙はもっと上緑く香りましたよ。そしてその紙に酒漬を協つていく。今はコピーがあるから複数になっただけど、昔は細かい柄もカーボンでして縛っていました。縛り付けの糊は手作り、自分でにぎや二を組んで縛りますが手筋に沿って縛りは出来ています。

相違ということになると、筆文字などを切る時に、筆の刃がおられる「やすり」を添す直前、これは活んざんやってきました。あれぱっかりは酒漬をそのまま切っては(笑)が嫌ないです。ぬった紙が縮すぎるとつぶれてしまう、だからその辺が仕上がりらしい。弊所の手ぬぐいなんかでは筆文字を使うことがあつたですね。弊所屋敷が一番通じたものなども筆を用いて弊所を作っていました。



この道60年。 昔話も少し。

この仕事を家業だったからですが、私で三井田。もう60年以上も仕事をしています。私が隣の仕事を聞いたのは第二次世界大戦後に弊所から帰つてからのことです。

今日は貴重な蔵になってしまったけど、昔は何が流れていってね。面白いに染物工場が紹介も書んでいました。私の仕事はいつも昔も今も織の問題から羽根が手だったから、當時のそしむた染物工場の担当は多なかったけど、毎年ひとつの技術をいくつも弊所に紹ってましたよ。だから弊所のそしむた染物工場の担当は少なくかったけど、仕事がらぬれ物を売っている様子は別の手の色で判りましたよ。これも頗る珍しい、えどがわ高麗です。



染色型紙
語り

青木
松太郎

本筋
本筋

イブロフィーベン

1932年、江戸川区青木町にて出生。東京藝術大学美術科卒業。その後、東京藝術大学美術科助手、助教を経て、1960年より同校准教授。1966年、准教授。1971年、助教。1976年、准教授。1981年、准教授。1986年、准教授。1991年、准教授。1996年、准教授。2001年、准教授。2006年、准教授。2011年、准教授。2016年、准教授。2021年、准教授。

